

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3670100936
法人名	グループホーム フェニックス
事業所名	医療法人 明和会
所在地	徳島市国府町井戸字左ヶ池39-1 (電話) 088-642-3646

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年7月3日

## 【情報提供票より】(平成 20年 6月 18日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 3月 21日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	12 人 常勤 6人, 非常勤 0人, 常勤換算 1ユニット 6人, 2ユニット 6人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,100 円	その他の経費(月額)	光熱水費10,200円、その他実費	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	245 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	105 円
	または1日当たり	— 円		

### (4) 利用者の概要(6月 18日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.1 歳	最低	81 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田蒔病院、湯浅歯科医院
---------	-------------

徳島県 グループホームフェニックス 1

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

四国八十八ヶ所17番井戸寺に近く、穏やかな田園が広がる中に位置している。『地域の中でその人らしい生活を支える』を理念とし、運営者・管理者・職員ともに理念の実践に取り組んでいる。利用者の「できること」を職員は業務優先することなく見守り、「待つ」という姿勢が信頼関係を作り出し、利用者の穏やかな表情や所作に表れている。また、医療連携体制がとられており、安心して生活ができるよう支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価に取り組み、評価を活かした改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は利用者や家族、地域包括支援センター職員、民生委員、グループホーム職員が参加している。会議内容は外部評価事業についての説明や災害時対応等についての討議等が行われている。会議は平成19年7月から平成20年7月までの1年間で2回開催されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置したり来訪時に声をかけるなど家族が相談や意見などを言いやすい雰囲気づくりを心がけている。家族の来訪時には日々の暮らしぶりや健康状態を報告している。出された要望などは職員全員で話し合い運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運動会の招待状を小学生が届けてくれて、利用者も参加している。またスーパーでの買い物を通じて店員と馴染みの関係を築いたり、地元の祭りやお寺詣りなど地域の行事に参加している。事業所の秋祭りにはだんじりの来訪があるなど、地域の方達と積極的に交流している。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『地域の中でその人らしい生活を支える』を理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りの際に理念に触れ、確認を行い実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運動会の招待状を小学生が届けてくれて、利用者も参加している。またスーパーでの買い物を通じて店員と馴染みの関係を築いたり、地域の祭りやお寺詣りなど地域の行事に参加している。事業所の秋祭りにはだんじりの来訪があるなど、地域の方達と積極的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員全員がサービス評価の意義を理解し、自己評価に取り組んでいる。月1回毎の職員会議で改善計画を立て理念の実践に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族、地域包括支援センター職員、民生委員、グループホーム職員が参加している。会議内容は外部評価事業についての説明や災害時対応等についての討議等が行われている。しかし会議は平成19年7月から平成20年7月までの1年間に2回の開催となっている。	○	運営推進会議は2ヶ月に1回、開催されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険申請手続きや実績報告時の際などに事業所の実状やサービスへの取り組みを伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には日々の暮らしぶりや健康状態などを報告し、急を要する時には電話にて連絡している。家族会ではビデオで日頃の暮らしぶりを見てもらっている。金銭出納は家族に報告し確認してもらい、職員の異動等についてはホーム新聞で報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり来訪時に声をかけるなど家族が相談や意見などを言いやすい雰囲気づくりを心がけている。出された要望などは職員全員で話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による継続的なケアを重要視している。異動の場合にはできるだけ引継ぎを丁寧に行い、利用者に影響が出ないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修に参加し、1か月毎の職員会議で報告を行い、職員全員で内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会徳島県支部の相互評価事業や勉強会に参加して事例の検討等を行い、サービスの質の向上に向けた取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に見学してもらい馴染んでもらう期間を設け、納得の上で利用に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員が多く、利用者とは孫と祖父母のような関係である。利用者から生活の技や知恵を覚えてもらう場面や励ましの言葉をかけてもらうことも多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で一人ひとりの言葉や表情などから意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向を反映させ、必要な関係者とよく話し合った上でプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しを行っている。また、状態変化や利用者・家族の要望に応じて見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況に応じて通院の付き添い等を職員が行っている。職員が付き添いを行った場合は家族へ随時報告し、安心に繋がっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望するかかりつけ医への受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に向けた同意書を作成し、グループホームが対応できるケアについての説明をしている。また状態や状況の変化により繰り返し話し合い、方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排せつや入浴の際には、さりげない言葉かけや対応がなされていた。また個人情報が含まれたファイルなどは鍵付きのキャビネットに保管するなど、取り扱いには注意がはられている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や希望に配慮しながら食事の時間帯を調節するなどその人のペースにあった生活ができるよう柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は毎日、一緒に買い物に出かけている。また調理や盛り付け、後片付け等もともにを行い食事を楽しむことができる支援に取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴できるように支援している。	○	曜日を特定せず、一人ひとりの希望に応じていつでも入浴を楽しめるよう支援することが望まれる。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りが一日の活動の中心になっている。利用者の意思を尊重しながら誰でも参加できるよう、一人ひとりの力に応じた役割ができています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や体調に配慮しながら散歩や買物、ドライブに出かけている。時折、利用者の希望で外食もしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいる。安全確保のため各ユニットの入り口にセンサーを設置している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同じ敷地内の介護老人保健施設と合同で避難訓練を年2回実施している。うち1回は消防署の指導を受け、自治会の方達の参加がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設施設の管理栄養士が立てている。食事・水分摂取量共に記録し、定期的にアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広く、ゆったりとしている。たたみのコーナーやソファが配置され、思い思いに過ごすことができる。迷わないようにトイレのドアには利用者の目線にあわせ目印を大きく表示している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や食器、写真など持ち込んでいる利用者やシンプルな部屋で過ごす人もいて、自分の好みで居心地よく過ごせるようになっている。		